

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）
2026年 第31週（7月27日～8月2日）

今週のコメント

～新型コロナウイルス感染症～ 咳エチケット、手洗い、マスクの着用、ワクチン接種が重要

定点把握感染症

「新型コロナウイルス感染症 今後の動向に注意」

第31週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は2,192例であり、前週比8.7%減であった。定点あたり報告数の第1位は手足口病で以下、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症の順で、定点あたり報告数はそれぞれ4.64、3.27、1.62、1.13、0.49である。

手足口病の報告数は前週比21%減の839例で、大阪市南部7.29、大阪市北部6.62、中河内6.47、大阪市西部5.80、北河内4.45であった。感染性胃腸炎は7%増の592例で、北河内4.86、中河内4.74、南河内4.00である。

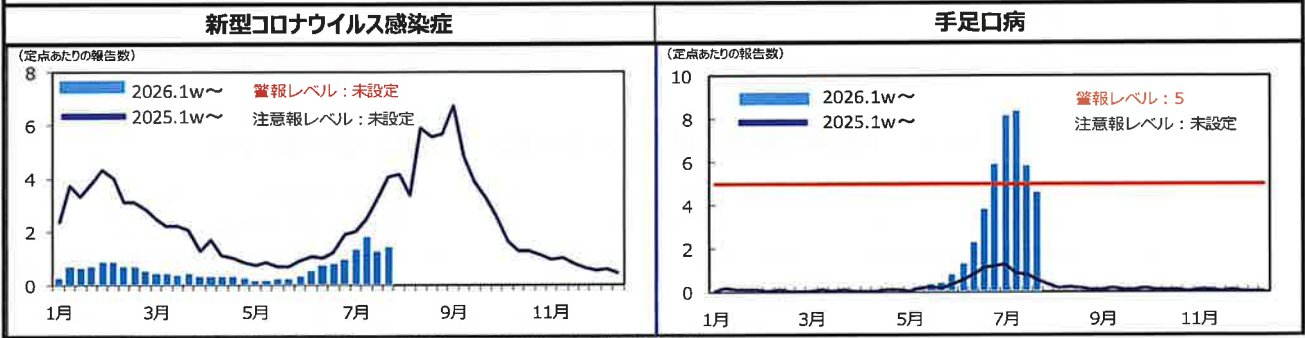
ヘルパンギーナは11%減の293例で、大阪市北部2.77、中河内2.74、大阪市西部1.80であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は14%増の204例で、北河内2.14、南河内1.73、大阪市南部1.47である。

RSウイルス感染症は14%減の89例で、大阪市北部1.69、南河内1.00、泉州0.60であった。

新型コロナウイルス感染症は13%増の423例で、定点あたり報告数は1.48である。南河内3.78、北河内2.17、中河内1.76、大阪市北部1.45、堺市1.40であった。

急性呼吸器感染症（ARI）は3%増の8,533例で、定点あたり報告数は29.94である。南河内41.57、北河内38.94、大阪市北部33.80、中河内33.59、泉州30.18であった。



※2025年第15週以降、定点医療機関数の変動により、警報レベル・注意報レベルの数値は参考値

表 1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2026年 第31週7月27日～8月2日）

第31週 の順位	第30週 の順位	感染症	2026年 第31週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2025年 第31週の 定点あたり 報告数	2026年第31週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	手足口病	4.64	21%減	0.57	1歳_38%
2	2	感染性胃腸炎	3.27	7%増	3.77	1歳_18%
3	3	ヘルパンギーナ	1.62	11%減	2.78	2歳_26%
4	4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.13	14%増	1.21	4歳_16%
5	5	RSウイルス感染症	0.49	14%減	0.89	1歳_49%
参考		新型コロナウイルス感染症 （急性呼吸器感染症定点報告疾患）	1.48	13%増	4.04	1-4歳_35%
参考		急性呼吸器感染症 （急性呼吸器感染症定点報告疾患）	29.94	3%増	36.31	1-4歳_45%

各疾患の詳細は、大阪府感染症情報センターホームページ（定点把握疾患、疾患別情報、病原体検出情報）をご覧ください。

第31週のコメント

～レジオネラ症～ 大阪府では2026年第31週時点で100例と、過去5年同時期と比べ最も多い

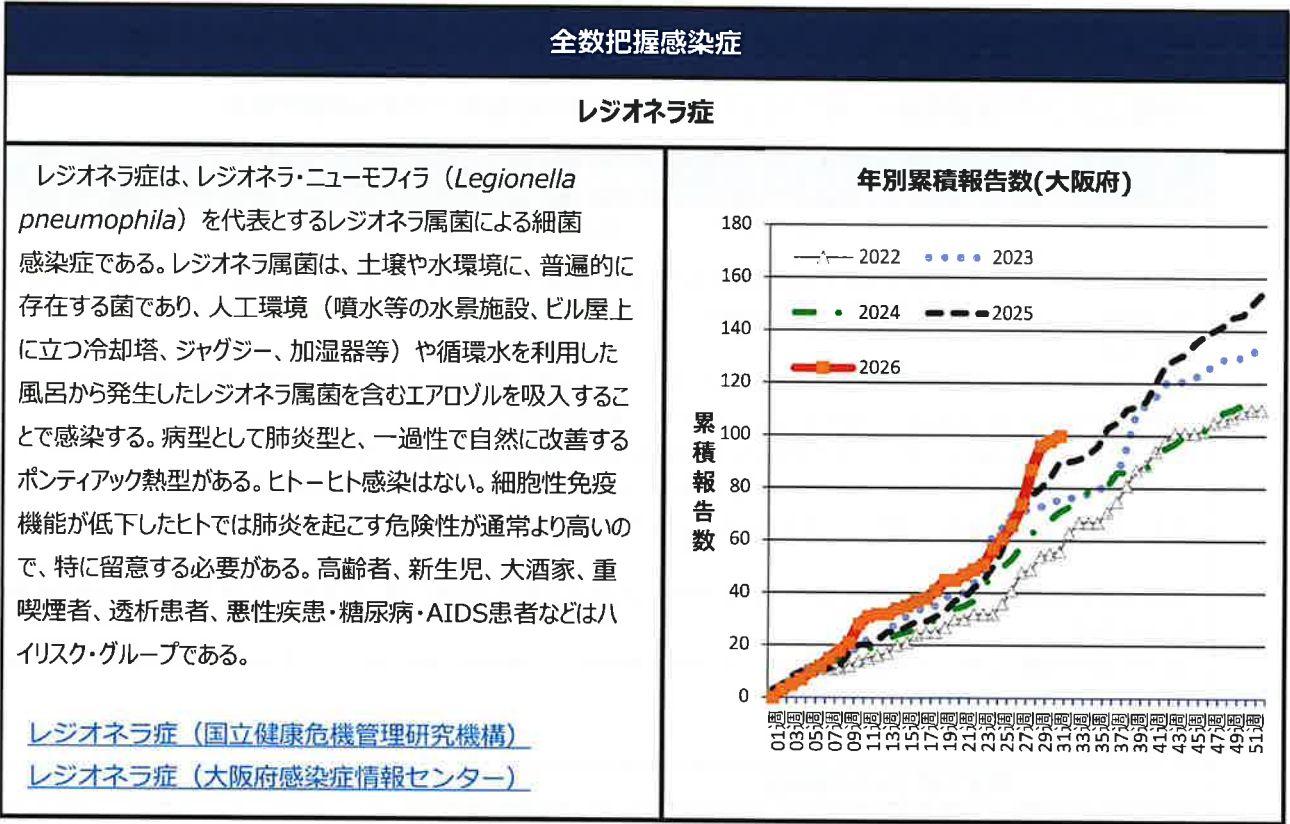


表 2. 大阪府全数報告数（2026年 第31週7月27日～8月2日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
(報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】> 全数把握疾患 をご覧ください。)

	疾患名 () 内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告 数	豊 能	三 島	北 河 内	中 河 内	南 河 内	堺 市	泉 州	大 阪 市	府 内 累 積 報 告 数
3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	7	1						1	5	104
4 類感染症	A型肝炎	1								1	11
	レジオネラ症	2	1							1	100
5 類感染症	ウイルス性肝炎	1								1	16
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1								1	59
	侵襲性肺炎球菌感染症	2				1	1				165
	水痘（入院例）	2		1						1	45
	梅毒	20	2	1		1		1	4	11	782
	播種性クリプトコックス症	1								1	9
	百日咳	3	1				1			1	200
結核 (2026年6月分)	結核 新登録患者数：54名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 21名) (府内累積報告数 390名、内 肺・喀痰塗抹陽性 127名)										

(2026年8月4日 集計分)